

大学生の初交タイミングと健康、スピリチュアリティ、宗教

小島 宏 (早稲田大学)

日本では今世紀に入って「草食化」や「セックスレス」の進展が言われ、近年の欧米諸国では若者を中心として“sex recession”や“virgin crisis”が進んでいると言われている (Jenkins 2020)。しかし、イタリアでは2000年国際比較調査と2017年調査の結果から大学生で性行動の活発化が進んだことが見いだされた (Dalla Zuanna & Vignoli 2021) が、関連論文を見ると世俗化により宗教の影響が低下したこともよるようである。報告者はこれまで結婚・出生関連の意識・行動への宗教の影響を分析してきた(e.g., Kojima 2014)し、2000年国際比較調査の日本版に資金提供した厚生労働科研費プロジェクトに参加したことから、最近になって同調査担当の佐藤龍三郎博士からマイクロデータの提供を受けたので、「草食化」のパイオニア世代の大学生の性行動に対する宗教の影響を探ることにした。日本では宗教そのものの影響は強くないことが予想されるので、宗教性と関連する「スピリチュアリティ」を表す変数群やそれを一要素として含む健康に関する変数群の影響を探ることにした。実際、佐藤 (2002) は2変数分析により初交経験に対して宗教変数の影響がないこと、スピリチュアリティの7変数の一部に大きな影響があることを見いだしているが、多変数解析をした場合にも影響が見られる可能性がある。

データは2000年11月～2001年1月にかけて日本性科学情報センター (調査代表: 島崎継雄) によって全国各地の大学で実施された「日欧性行動・意識・価値観比較調査」(有効ケース数980、うち男子370、女子600、性別不詳10) である。従属変数は初交タイミング (年齢) で、総数、男子、女子についてCox回帰分析を行った。統制変数としては (男性)、都内大学在学、文学専攻、週末親同居、バイトせず、たまにバイト、父大卒、父自営、11～12歳母就業、兄存在を用いた。独立変数としては高BMI、不眠症、「流行追うの好き」賛意、「結婚は永遠」賛意、「居心地悪さ対処不能」賛意、「宗教重要」賛意を用いた。

総数の分析結果では、(男子を除く) すべての統制変数と独立変数が少なくとも10%水準で有意であった。都内大学在学、父大卒、父自営、11～12歳母就業、兄存在、不眠症、「流行追うの好き」賛意、「結婚は永遠」賛意が初交促進効果をもち、文学専攻、週末親同居、バイトせず、たまにバイト、高BMI、「居心地悪さ対処不能」賛意、「宗教重要」賛意が初交抑制効果をもつ。男女別の分析結果では少なくとも10%水準で有意な変数の効果の方向は同じである。男子の分析結果では父自営、兄存在、不眠症、「流行追うの好き」賛意が初交促進効果をもち、文学専攻、週末親同居、たまにバイト、「宗教重要」賛意が初交抑制効果をもつ。女子の分析結果では都内大学在学、11～12歳母就業、「流行追うの好き」賛意、「結婚は永遠」賛意が初交促進効果をもち、週末親同居、バイトせず、高BMIが初交抑制効果をもつ。

結局、健康変数としては不眠症が男子で初交促進効果をもち、高BMIが女子で初交抑制効果をもつ。スピリチュアリティ変数としては「流行追うの好き」賛意が男女それぞれで初交促進効果をもち、「結婚は永遠」賛意が女子で初交促進効果をもつが、「居心地悪さ対処不能」賛意は男女いずれにおいても有意な効果をもたないものの男女総数で初交促進効果をもつ。宗教変数の「宗教重要」賛意は総数と男子のみで初交抑制効果をもつ。

文献:

Dalla Zuanna, Gianpiero and Daniele Vignoli (2021) “Pleasure and fidelity: Italian millennials and sex” *N-IUSSP*, April 12.

Jenkins, Philip (2020) *Fertility and Faith: The Demographic Revolution and the Transformation of World Religions*. Waco, Texas: Baylor University Press.

Kojima, Hiroshi (2014) “The Effects of Religion on Fertility-Related Attitudes and Behavior in Japan, South Korea and Singapore,” *Waseda Studies in Social Sciences*, Vol.15, No.1, pp.1-26.

佐藤龍三郎 (2002) 「日欧大学生性行動比較調査の経緯と結果の概要」『先進諸国の少子化の動向と少子化対策に関する比較研究 厚生労働科学研究費平成13年度報告書』(主任研究者: 小島 宏).

キーワード: 初交タイミング、スピリチュアリティ、宗教